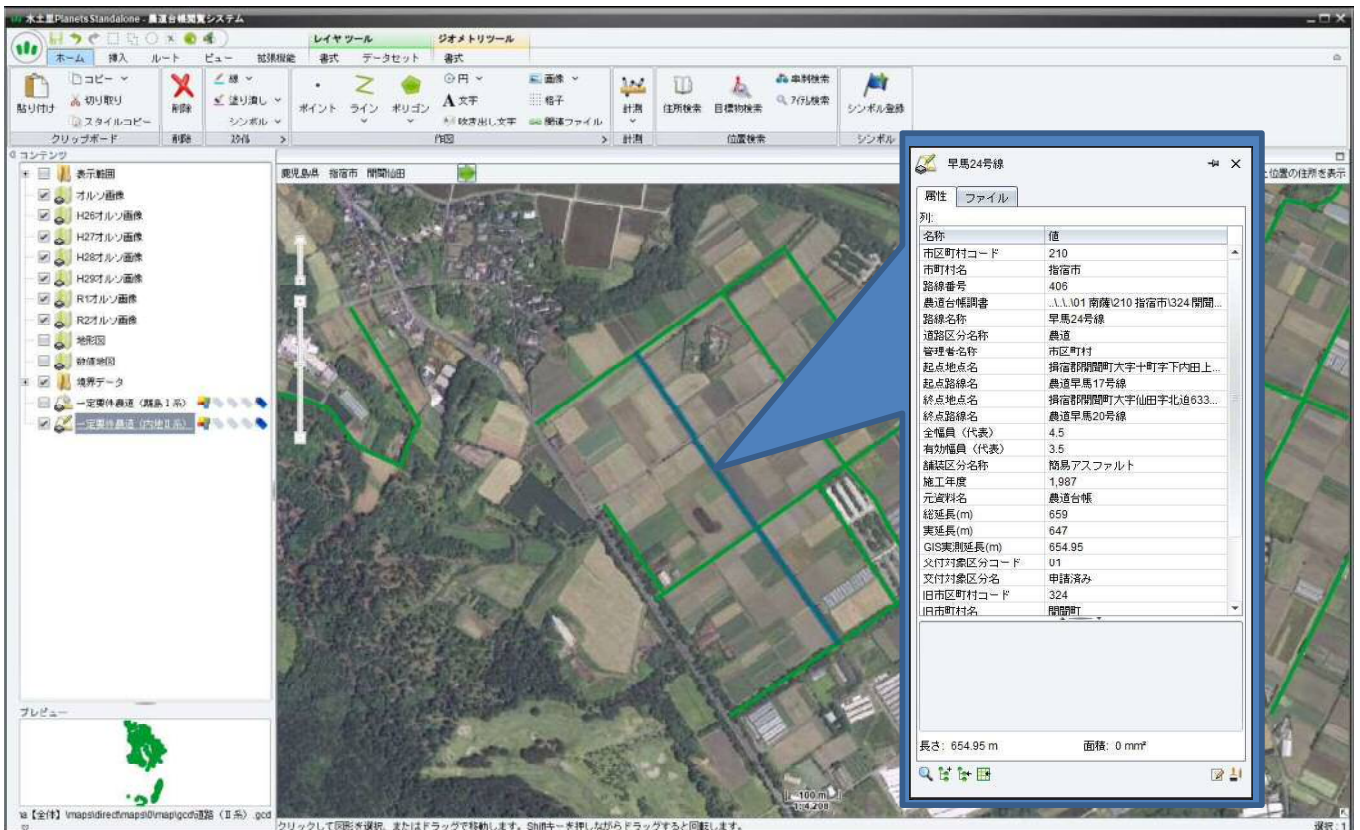


今回紹介する団体: 水土里ネット鹿児島

取組概要

内容: 水土里ネット鹿児島では、県内全ての市町村が管理する農道台帳の管理路線について、路線網図や台帳・管理図等をMK-Maps(鹿児島県水土里情報システム)で一元管理している。(6,962路線・3,370km 令和4年度末時点)
管理しているデータを日常管理や保全計画の策定等に広く活用していただくため、農道台帳閲覧クラウドシステムでの提供を開始した。

- 経緯: ① これまでも、MK-Maps(鹿児島県水土里情報システム)で情報を管理・提供していたが、スタンドアロン方式のため、システムをインストールしたライセンス保有者しか閲覧できず、データ共有が困難等の問題があった。
- ② また、MK-Mapsを導入していない市町村は、土連の出先事務所等に直接来て頂いて閲覧していた。
- ③ 今回導入した農道台帳閲覧クラウドシステムは、オンライン認証方式を採用しており、総合行政ネットワーク(LGWAN)に接続可能なパソコンであれば、誰でも同一のデータを閲覧することができる。
- ④ 令和4年度から鹿児島県内の全市町村に配布し、農道台帳の閲覧・日常管理として活用されている。



(農道台帳閲覧クラウドシステムの表示画面)

取組による効果

- ①全市町村への農道台帳システムの提供:従来のスタンドアロン方式では、システムを導入している市町村しかデータの提供を行えていなかった。しかし、クラウドシステムになったことで、全市町村へシステムでの農道台帳データの提供が可能となった。
- ②利用率の向上:LGWAN回線上でアクセスを許可された人が誰でも閲覧可能となったことで、利用率が向上した。
- ③利用者間の同意が得られれば、行政と土地改良区等でリアルタイムに最新情報の共有が可能となる。

今後の活用予定

- ① 農道の定期点検等の結果は、保全対策計画を立案する上で参考とする基礎的な情報であり、適切に記録し、蓄積する必要がある。
- ② 農道の保全対策は劣化の進行を踏まえて、より効率的な保全対策を比較検討し選択するものであるため、構造物諸元、保全対策の履歴、日常管理状況、点検結果等の情報が検討にあたっての重要な情報であり、これらの情報を構造物毎に収集・蓄積し、一元的に管理する必要がある。
- ③ 水土里情報システムを活用し、日常管理や点検を行うことで、施設の状況を的確に把握することが可能となり、劣化予測の精度の向上等が図られる。
- ④ 保全対策の履歴、日常管理状況、点検結果等の情報等を毎年更新するとともに、データベースを容易に更新、検索、編集できるようにしておく。
- ⑤ クラウドサーバーに土地改良施設データを置くことで、総合行政ネットワーク(LGWAN 県・市町村・農業委員会)又は、インターネット一般回線(市町村・土地改良区・その他団体等)を通じて、将来的に鹿児島県全体で情報共有が行えるシステムを目指している。

GISシステムのバージョン情報

MKCloud(仮称)

GCPlanets Standalone

■お問い合わせ先

鹿児島県土地改良事業団体連合会 水土里情報センター 099-223-6347